



ROTARY CLUB OF

NARA - WEST

DISTRICT WEEKLY BULLETIN
2650 No. 2330

2018. 8. 2

創立 1969年(昭和44年)12月13日
例会日 毎週木曜日18:00より
事務所 〒630-8001 奈良市法華寺町254番地
例会場 奈良ロイヤルホテル内
TEL 0742-34-1131 FAX 0742-30-2000

2018～2019年度
国際ロータリーのテーマ

2018～2019年度
地区のスローガン



ロータリーを学び、実践し、発信しよう；
Enjoy Rotary

国際ロータリー会長
バリー・ラシン

RI第2650地区ガバナー
中川 基成

会長	追山 重法	副会長	小原 壮一		
幹事	猪上 正孝	会計	奥田 裕一郎	会場監督	東山光秀
理事	笹本麻琴	理事	金田 宗寛	理事	植野洋志
理事	相澤万裕子	役員	有馬 康明	会報委員長	松山悦啓



8月 霊山寺 花火大会

2018～2019年度 国際ロータリー第2650地区 中川 基成ガバナー公式訪問特集



■ 合同公式訪問プログラム

15:30～16:30 奈良西RC会長・幹事・役員懇談会
16:45～17:45 平城京RC会長・幹事・役員懇談会
18:00～19:00 例会(ガバナーアドレス18:30～)

■ 同行者 ガバナー補佐 中窪 啓司様
■ 随行者 地区幹事長 岩井 常二様

今月は 会員増強・新クラブ結成推進 月間です

第5回(2330回)例会プログラム平成30年8月2日(木)

1. 開会宣言 点鐘
2. ソング「君が代」「奉仕の理想」
3. 来訪者紹介・出席報告
4. 会長の時間・会長報告
5. ニコニコ報告
6. 委員会報告
7. 幹事報告
8. ■前年度会長幹事慰労会
■ガバナー訪問お疲れ様会
■木村 新会員歓迎会
■事務局員様慰労会及び歓迎会
9. 閉会宣言・点鐘

第4回(2329回) 例会報告 平成30年7月26日(木)

ソング

「君が代」「奉仕の理想」

来訪者紹介

中川 基成 様 国際ロータリー第2650地区ガバナー
中窪 啓司 様 国際ロータリー第2650地区ガバナー補佐
岩井 常二 様 国際ロータリー第2650地区幹事長

出席報告

	会員数	出席計算 免除会員数	出席会員数	欠席者数	出席率
通算 2329 回	46	7/11	27/35	8	81.0%
通算2327回修正	46	10/11	33/35	2	95.6%

会長の時間

皆様今晚は、本当に暑い日が続いていますがこまめな水分補給をしてお自愛ください。
本日は中川ガバナー、中窪ガバナー補佐、岩井幹事長をお迎えして平城京ロータリークラブとの合同ガバナー公式訪問です。
中川ガバナー一行様、ようこそ私ども両クラブへお越しいただきまして誠にありがとうございます。両クラブを代表いたしまして御礼申し上げます。
15時30分より奈良西ロータリークラブ、16時45分より平城京ロータリークラブの会長、幹事、役員の懇談会を開催頂き有難うございました。なかなかこの様な機会がありませんので色々勉強させていただきました、続けて発信してゆきたいと思っております。
この後、お疲れではございますが、中川ガバナーにはアドレスをお願いいたします。
今年1年、両クラブを宜しくお願い申し上げます。
以上で会長の時間といたします、有難うございました。

ニコニコ報告

追山重法会長

中川ガバナー、岩井幹事長、中窪ガバナー補佐ようこそいらっしゃいました。平城京RC、奈良西RC合同公式訪問いただき、ありがとうございます。宜しくお願い申し上げます。

松川さん、先日はありがとうございました。

中川会安井さん、お世話になりました。

小原壮一会員、松川信夫会員、吉村信男会員、中西吉日出会員、谷垣嘉輝会員、有馬康明会員、内藤源美会員、松山悦啓会員、植野洋志会員、金田宗寛会員、榎木晋作会員、笹本麻琴会員、植野教夫会員、浅野晋良会員、野阪幸男会員、小松玲子会員、寺田信弘会員、木村和弘会員

中川基成ガバナーをお迎えして公式訪問よろしくお願ひ申し上げます。

山上巖会員、三木武彦会員

暑中お見舞申し上げます。暑さ厳しい折皆様のご健康をお祈り申し上げます。

ガバナー御一行様をお迎えして ニコニコ

安井清悟会員

中川ガバナー公式訪問よろしくお願ひいたします。先週はお祭りに花を添えていただいて会長様はじめ皆様ありがとうございました。

佃尚彦会員

はじめまして 佃です。ニコニコ

猪上正孝会員、奥田裕一郎会員、渡邊巖会員、竹田知弘会員、東山光秀会員、福川益則会員

中川ガバナー、岩井地区幹事長、中窪ガバナー補佐 本日はよろしくお願ひ致します。

中川基成ガバナー様、中窪啓司ガバナー補佐様、岩井常二地区幹事長様

幹事報告 (猪上幹事)

- ①例会変更情報は、表の座席表と共に掲示しております。
また、ホームページの会員ページにも掲載しておりますのでご覧下さい。
- ②次週の8/2は前会長幹事慰労会です。
- ③本日も回覧させていただいております、8/26 家族親睦会、多数の参加お願ひ致します。
- ④檀原RC会長よりIM案内のお礼状が届いております。

皆さん改めて今晚は。
本日は奈良西ロータリークラブ様と、そしてその子クラブである平城京ロータリークラブ様との合同の公式訪問をこうやって皆様方に温かくお迎えいただきまして開催していただくことを本当に感謝申し上げます。

先ほど追山会長からお話がありましたように、懇談会をそれぞれ1時間ずつ、本当に中身の濃いお話し合いをさせていただいたかなと思っております。それぞれのクラブにおかれましては非常に内容の濃い奉仕活動をされているなど改めて感心いたしました。

奈良西ロータリークラブ様は、次年度50周年をお迎えになる。その前に今年はIMのホストクラブをしていただくということで着々と周到にご準備頂きましてこの場を借りて御礼申し上げます。有難うございます。

そして平城京ロータリークラブ様も35周年に向けて非常に意欲的な取り組みをされておりまして奉仕事業の内容も非常に多彩に渡り、改めて御礼申し上げます。



私どものアドレスをこれからさせていただくわけですが、2018-19年度のRI会長がバリー・ラシンさんという方です。この方はバハマという700ほどある島の小さな島国の方でございまして、35万人の国でございまして、ほぼ奈良市と同じぐらいの人口の国だと思えます。バリー・ラシンさんはお爺様がイギリスの方で病院経営をされています。ご本人はお医者さんになりたかったらしいんですけども、なかなか志叶わず、お医者さんにはなれなかったけれども病院経営をされている方です。御夫婦揃ってのロータリアンだと聞いております。

私よりずっと大柄な方で、奥様も私よりずっと大柄で、非常に貫録があり、物静かな方です。

ただスピーチになると俄然私たちに訴えるものがございまして、本当に素晴らしいRI会長が誕生したと思えます。

実はバリー・ラシンさんは本当は予定ではなかったのです。

アフリカのウガンダという国のサミュエル・オウオリさんという方が当初は会長になる予定だったんですが、エレクトになって直後にお亡くなりになりました。そしてエレクトに急遽交代されたのがこのバリー・ラシンさんです。

わずか1年弱の中で準備されましてこの年度に入った訳でございます。

バリー・ラシンさんは"BE THE INSPIRATION"という言葉を経営テーマに挙げています。

日本語で「インスピレーションになろう」なんですけども、この言葉を会長テーマに挙げられたということは、私たちガバナー同士でも非常に意味がよくわからないと。インスピレーションですから「閃き」でありますけれども、実は非常に強い意味があるわけでありまして、それはインスパイアでありまして、「人の心に火をつける」とかあるいは「息吹きを吹き込む」とか「鼓舞する」とかインパクトの強い言葉なんです。スピリットから来てまして、ご存じの通りスピリットとは「魂」とか「精神」や「心」とかこれを非常に大事にされる方です。

ロータリアンの原点、ロータリーの魂、精神をもう一度見直そうと、こういうところにバリー・ラシンさんは非常に重要な力点を置かれたわけでありまして。

それはロータリーに対する危機感が非常に強くありまして、先進国の各ロータリークラブは日本だけではなく、欧米でも1988年をピークにずっと減少しました。

ところがアフリカや東南アジアはクラブも増えましたし、そして会員も増えました。ところが肝心の先進国が減ったわけでありまして。これは日本だけではないわけでありまして。

それと、一般社会の人たち、ロータリアンじゃない人たちのロータリーに対する認知度と言いますか、ロータリーの理解というものがほとんど進んでいないという調査結果が出ました。

自分の街にロータリーがあるというの知らない人もいますし、知っている人でもロータリークラブが何をやってるか分からない人が沢山いるということでもあります。

そして何よりもロータリアン自身がロータリーとして何を取り込むかということを非常に悩んでおられるクラブやロータリアンが増えて来ているということでありました。

その中で昨年は、イアン・ライズリーというオーストラリアの会長が"ROTARY MAKING A DIFFERENCE"と、ロータリーに変化を起こそうと、このままじゃいけないから、ロータリーを変化させようと、変化を起こして欲しいと。バリー・ラシンさんは更にロータリアンの心にまで踏み込んで、その地域や社会に対してあるいは皆様方の職場において、皆様方のリーダーシップを期待したわけでありました。その地域の人たちその職場の人たち、あるいはそのクラブの人たちが周りの人たちに強いインパクトを与えるようなリーダーであって欲しい。心に火をつけられるようなクラブであって欲しい、ロータリアンであって欲しいというのがこのテーマであります。

時を同じくしてロータリーのRIがビジョン声明、これからのロータリーがどのような方向に進んでいくかということ非常に短い言葉で発表致しました。

二つポイントがありまして、1つは持続可能な良い変化を生み出そうと。持続可能であり、良い変化を生み出す。それは自分自身の中で、私たち自身の中で、そして自分達の職場において地域社会において、そして更には世界に対し、良い変化を生み出す。

それはお互い手を取り合って共に行動して、良い変化を生み出そうと。そういう内容であります。

マザーテレサの言葉をバリー・ラシンさんは最初のスピーチで私たちに教えてくれました。

マザーテレサの言葉の中に「世界を平和にしたいと思うのであれば、まず家に帰って家族を愛しなさい」という言葉があります。そういう言葉を私たちにバリー・ラシンさんは教えてくれました。

そしてもう一つ、分かりやすく教えてくれた言葉の中に冒険家のサン・テグジュペリ、「星の王子様」を書いた冒険家がいるんですがその人の言葉も挙げました。

「船を作りたいと思うのであれば設計図を描いたり材料集めたりするよりもまずあの大海原に出かけたいという切望する心、熱望する心を育てることだ」という言葉を挙げました。

言わば私たちの魂のやはり心根の部分が一番大事だということ二つの有名な言葉として私たちに示唆してくれたわけでありました。

私はこのバリー・ラシンさんの"BE THE INSPIRATION"を受けまして、じゃ、私たちは何をすればいいのかという風に考えました。

私はまず私たち自身がロータリーを楽しんでいるだろうか、ロータリーを自分のものになっているのかどうか、そこに私はこの"Enjoy Rotary"という言葉の一つに挙げたわけですが、その"Enjoy Rotary"のためには、どんなことが必要なのかというのをこの三つのポイント「学び」と「実践」と「発信」というところに着目したわけでありました。

私はロータリーに入って20数年になりますが、ロータリーというところのまず一つの特徴と言いますか、凄みとっていいといい思いますけどもロータリーというのはいくつもいろんなプログラムがございます。まずこの例会というのもロータリーの1つの当初からのプログラムであります。





そして奉仕活動・親睦活動・いろんな研修セミナー、それらが全て私たち自身が学び合う場を提供しているわけであります。

ロータリアン同士がお互いに出会って、いろいろなことを気付き、そして自分たちの生きるべき道を、行き方を、あるいは人生を考える、そういう場を提供していると私はロータリーというのは仕組まれていると思うわけであります。

そして何故そういう場を設定しているかという、やはり私たちが日頃仕事におきましても奉仕活動におきましても、私たちがその実践をするためであります。

行動するために私たちはロータリーに来るわけであります。

奉仕活動と言いましても5大奉仕がございます。

この中で特にバリー・ラシンさんが強調したのが青少年奉仕というものでございます。

両クラブ様もこの青少年奉仕というものには非常に積極的に取り組んでおられます。

奈良西ロータリークラブ様は、青少年交換留学生、あるいは米山奨学生を毎年受け入れておられます。

そして平城京ロータリークラブ様は左京の森の奉仕事業プロジェクトをずっと続けておられます。いろんな形で地域の人たちを巻き込んでやっておられます。

そしてにロボットによる交流の集い、それを長年に渡って高の原の小学校におかれて、小学生のいわゆる育成といいますが、学校ではなかなか勉強できないことを、ロータリーらしい活動をされています。

この青少年奉仕に関しまして、バリー・ラシン会長は更に私達ロータリーは力を注ぎ込む必要があると言いました。例えばローターアクトに関して言えば、今、私たちの地区だけではなく、実は世界中のローターアクトの会員数が減っているのです。

この地区は今200名余りであります。実は600名、700名の時代からするともう1/3、1/4であります。

このままでいいのかどうか。

今、バリー・ラシン会長が世界のローターアクトを2倍にしようと言っています。

青少年奉仕はRIは今どういう風に考えているかと言うと、今の社会を私たちは次の世代に引き継ぐ責任がある、という考え方であります。ですから未来の社会へ奉仕を私たちは青少年奉仕を通じてやっているということであります。

そういう意味ではこの両クラブ様にはもう既に長年取り組んでおられる。非常に模範的な奉仕活動をされてるなと考えていたわけであります。

そして発信であります。実践に関しましてはその他、国際奉仕や職業奉仕やクラブ奉仕もございまして。

社会奉仕もあります。

しかし皆様方が1つのプロジェクトに対していろんな形で共同してやっていこうというのが今のロータリーの大きな流れでもあります。

そういうことをやはり今、事例として両クラブが挙げられた活動は必ずその地域の人たちに強いインパクトを与えているのは間違いありません。ロータリーの活動が地域の人たちに大きく支持される、そういうことが正にロータリーを発信するということでもあると思います。

もっと言えば、皆様方が家族の人たちや友人や、或いは職場の人たちにロータリーの考え方や、やっていることの違いが分かりやすい話しを是非していただくことがロータリーを広げていく、ロータリーの仲間を広げる、ロータリーの価値を共有できる人を増やす一番の近道ではないかと思うわけではあります。

さて、会員増強の話に入りたいと思います。

会員増強については各クラブとも各先進国のクラブと大きく言ってもいいと思います。日本のクラブ全てがそうだと思いますが、非常に大きな壁にぶつかっております。

会員増強についてはそれぞれのクラブ様がいろいろ今までも工夫をされています。今日もいろいろ聞かせていただきました。

私は会員増強を考えると、まず大事なことは、クラブの活動がまず充実していることが先決だと思います。クラブの皆様方がそれぞれの地域におきましていけば自分たちの手作りの奉仕活動をする事で一致団結してやられるということがまず大前提だと思います。

今日お話を聞いていますとそういうことには長年取り組んでおられます。
内容については十分、会員増強という観点からおかれても十分取り組んでおられると感じましたし、現実そう
あります。ただ問題はどうかやって会員増強をするかであります。

2年前に規定審議会の改訂でクラブの自治権が大幅に広がりました。
それはロータリーという奉仕の理念とか使命とかそういうものは何ら変わってないわけであり
ます。どう運営するか、運営の仕方のこの幅が広がったということです。
決して国際ロータリーが何か方向を変えたわけでも何でもありません。
言い方を変えれば、皆様方各クラブの柔軟性が広がった、言わば選択肢が広がったわけ
であります。それは運営の仕方の選択肢が広がったわけであり
ます。決してロータリーの職業奉仕だろうと青少年奉仕であろうと社会奉仕だろうと
その考え方は何ら変わっておりません。ロータリーの5つの中核的価値観、これは何ら
変わっておりません

中核的価値観の話となりますと長い話になりますが、もう一度改めて5つの価値観を
皆様方にご確認していただきたいのは、1つは奉仕であります。当たり前であります
が、サービスであります。そしてフェロウシップ、親睦であります。5つのうち、2つ
が奉仕であり、親睦であります。3つ目はリーダーシップであります。正にこのロー
タリーはリーダーの集まりであります。そのリーダーシップをどう発揮するかという
ことが非常に大事だということは、ロータリーは当初から変わりはないわけ
であります。そして4つめは、英語でintegrityと言いますが、高潔性であり
ます。高い倫理観であります。皆さんは高い倫理観、高潔性を持ってお仕事に
取り組んでおられる。4つのテストは正にそのことを言っているわけ
であります。そしてもう一つはダイバーシティであります。最近よく言われる
ようになりました、多様性であります。多様性というのはそもそも113年前
にロータリーが生まれた時にそのことを前提としてロータリーができたわけ
であります。

今、200以上の国と民族、地域で成り立っております。今、123万人のロー
タリアンがいます。正に宗教や言葉や民族や、或いは習慣、全て違う人達
が集まっているのがロータリーであります。ダイバーシティの塊がまさに
ロータリーであるわけです。私はこの各クラブにおきましてもいろんな人達
との出会いの中で皆様方お互いが、インスピレーションを与えあ
っているのではないのでしょうか。インスパイアをお互いにしている
のではないのでしょうか。ダイバーシティがあるから私たちはいろいろ勉強
ができるのではないのでしょうか。

松下幸之助さんが熱心なロータリアンだったらしいのですが、彼は決して
ロータリーに行く時に社員の皆さんに例会に行ってくるとか、昼飯食
べに行ってくるとは言わなかったらしいです。こう言って出かけた
そうです。「ちょっと勉強しに行ってくるわ」といって例会に出席
されたと聞いています。あの松下幸之助さんが例会に勉強しに行
ってくるのと行って例会に出席していたと聞いています。私は5
つの価値観をざっと申し上げましたが、この考え方がポール・ハ
リスの時代から変わってないわけ
です。基本的な考え方は変わって
いません。



だけど、大事なことは、時代が変わっているわけです。

そして職種も広がりました。そして若い人たちの考え方も変わりました。女性会員も段々増えています。今日ここにもお越しですけれども、昔はロータリーは女性会員を入れてなかったんです。そして女性会員も入り広がりました。まだ残念ながら女性会員は日本は5パーセントです。世界は20パーセント以上であります。日本人というのは「和を以て貴しと成す」という言葉がある通り、私たちは十分多様性を受け入れられる、和を以ていろいろな人たちを受け入れられる、そういう度量を持っている民族だと私は思います。その部分を皆様方はベースにさせていただいて運営の仕方はそれぞれのクラブにお任せされているわけです。自主権がある。自治権があるわけです。この部分は、是非皆様方、長期ビジョン計画等でいろいろとご検討いただいていると思いますけれども、柔軟にお考えいただいたら結構かと思えます。私たちがこうしろ、ああしろと言うものではありません。今までの歴史、伝統がある両クラブですから、根本の部分は大事にさせていただいて、そしてこれからのあるべき運営の仕方、或いはあるべき方向性はしっかり見定めていただく、こういう機会にさせていただいたらどうでしょうか。

奈良西さんは50周年をお迎えになる。そして平城京さんは35周年をお迎えになる。

一つの節目の年でもあろうかと思えます。私はこの機会に皆さんでそういうことを考える機会にさせていただいたら有難いと思うところでございます。

最後になりますが、私は両クラブ様が親子クラブという関係で非常に仲の良い両クラブだな、という風に思っています。これからはクラブ同士がお互いに協力し合うということももっとあって良いと思えます。

委員会同士がお互いに協力し合って1つの事に取り組むということもあって良いと思えます。

そしてさらには地域社会の人たちにロータリーの輪に入らせていただく、その方法を考えていただくことがあってもいいんじゃないでしょうか。

私が思うにロータリーは地域の人たちにとって非常に魅力的なものであるということがわかっていただけると思えます。それだけの活動をされているわけでありまして。

そこは十分自信を持っていただきたい。そういう風に思うところであります。

最後になりますが、この両クラブ様が次世代に向かって地域社会の人たち、或いは職場の人たちに大なる息吹きを吹き込める、そういうさらなる飛躍を遂げさせていただきたいと思えます。

皆様方の益々のご活躍とそして両クラブのご発展を心から祈念申し上げまして私のアドレスとさせていただきます。どうもご清聴有難うございました。





ガバナー 会長・幹事・理事・役員懇談会



第6回（通算2331回）例会予告
例会日 平成30年8月9日（木）
早朝例会
移動例会 霊山寺

（担当：松山、オフォス）